

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成28年度採択分）
「日本発東アジアネットワークの構築を基幹とする文化人類学研究の国際情報発信強化」
（課題番号：16HP3004）

学術団体名：日本文化人類学会

学術刊行物の名称：『文化人類学』別冊Japanese Review of Cultural Anthropology

事業期間：平成28年度～平成32年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

昭和9年の設立以来、日本文化人類学会（旧日本民族学会）は日本で唯一の文化人類学・民族学の全国組織として、この分野の研究発展に寄与してきた。グローバル化の進展に伴い、世界第2の規模を誇る文化人類学の学会として、本学会が日本の人類学を国際的に発信するためにいっそう能動的な役割を果たすことは急務である。平成10年には、従来の和文誌に加えて英文誌*Japanese Review of Cultural Anthropology*（以下JRCA）を刊行しており、本取組はJRCAを日本発の国際的学術誌に育てることを主たる目的とする。そのために①毎年度1号刊行のJRCAを2号刊行にする、②JRCAを東アジアの人類学者共有のフォーラムとする、③JRCAの編集体制を国際化する、という3点を柱とする。

・応募時に設定した取組の目標・評価指標

<応募時点での学会の国際情報発信の状況>

応募時点での国際情報発信の中核は英文誌JRCA（毎年度1号刊行）である。和文誌『文化人類学』（毎年度4号刊行）と合わせた英文率は、平成18年度以降、平均20%程度である。JRCAはすでにオープンアクセス化している一方、投稿権は学会員に限定されている。

<助成期間内に何をどこまで強化しようとするのか>

1. 5年間で和文誌を含む英文率を2倍に引き上げるため、JRCAの年間2号刊行体制を確立する。
2. 海外からの投稿数を大幅に増やすため、東アジア地域の人類学者が投稿できる体制を整える。
3. 若手研究者の国際学会での発表を支援し、JRCAでの論文掲載を促進する。
4. 海外研究者に査読者・編集委員を委嘱し、JRCAの編集・査読体制を国際化する。
5. 国際的に著名な日本・東アジア研究の人類学者を招聘し、JRCAを通じて成果を世界に発信する。

2 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況

平成28年度ならびに平成29年度は、ほぼ計画通り事業を実施した。

1. JRCAは、平成28年度から毎年度2号体制を維持している。平成28年度は移行期に当たったためJRCA総頁数は全172頁にとどまったが、平成29年度全420頁となり、英文率が飛躍的に高まった。
2. JRCA掲載開始のClassic Japanese Anthropology Seriesを継続し、日本人類学の重要論文を英訳し詳細な注釈を付して国際的に発信している（平成28年度は3本、平成29年度は2本を掲載）。
3. 学会員の国際的発信力を強化するため、JRCAへの投稿を広く呼びかける。また、平成28年度、平成29年度ともに年間1名の若手研究者を選抜して旅費を支援し、国際学会に派遣した。
4. 東アジアそして世界の人類学会との関係強化のため各国学会会長らを本学会研究大会に招き、各国学会の大会に学会代表2名を、人類学会世界協議会（WCAA）に学会代表1名を毎年度派遣している。
5. 平成28年度に編集体制の強化・国際化に着手し、編集委員6名体制から9名体制に変更し、そのうち外国人委員2名を加えた。また、平成29年度には9名体制を11名体制に改めている。
6. 平成28年度、平成29年度ともに、学会主催の国際シンポジウムに著名な研究者を海外から数名招聘し、登壇者の発表内容を特集論文（英文）としてJRCAに掲載した。

・今後の計画

- ・今後もJRCAを本学会の和文誌『文化人類学』と連携させて、一層の英文率アップを目指す。
- ・平成31年度からは、日本・東アジア研究を行う世界の人類学者の投稿を受け付ける。同時に編集補助者1名、編集委員会15名、国際諮問委員会10名の体制をとり、海外査読者制度を導入する。
- ・平成32年度（最終年度）は、JRCA掲載論文に対する学会賞を設置する予定である。これを記念して台湾もしくは香港で国際ワークショップを行う本学会・連携各国学会会員5名を派遣する。
- ・平成33年以降は、新たな外部資金を獲得し、東アジアでの人類学ネットワークを、さらに拡大させる計画を考えている。とくに、東南アジア、太平洋地域の文化人類学会との連携をめざす。